白い息吹　歴史の風

ローマ古代遺跡における一東の大理石彫刻

2009年5月～10月

企画　コルサニーニスタジオ、伊日財団

後援　イタリア文化財省、ローマ県、日本大使館、日本文化会館

杭谷一東氏の大理石彫刻が30点、チェチリア・メテッラの墓廟、クインティリ家の邸宅、そしてマッシモ宮（ローマ国立博物館）にて、ローマで初めて展示されます。

一東氏の彫刻作品は、地上で生まれ天へと発信される形やイメージに生命を与えるという、芸術家と大理石の密接な関係から生まれます。この自然との密接な関係は、芸術家と素材という物質的な対話にとどまらず、杭谷作品の研究家であり評論家であるエンリコ・クリスポルティ教授が表現するように、「対話、歩み、接近を促す環境造形」を作成するのです。

古代ローマ人も同じようにこの素材「大理石」の使用に情熱を傾けました。そのローマ古代遺跡の幻想的な風景が広がるアッピア旧街道において、一東氏の作品が、芸術家と自然と全人類の対話に新しい形を与えます。そして、人間と自然の対話、和解、共存といった重要な価値を再び提示し、過去と未来をつなぐ橋となります。

クインティリ家の邸宅（アッピア旧街道）　大規模作品6点

唯心

高さ　3m
幅　1.9m
奥行　1.3m

天空の標　高さ　2.2m
幅　5m
奥行　2.2m

敬意

高さ　5m
幅　2m
奥行　2m

天地花　高さ　6.3m
幅　7m
奥行　6m

和舒門

高さ　3.5m
幅　2.2m
奥行　2.2m

曙風門

高さ　6.2m
幅　2.2m
奥行　4m

ローマ国立博物館　マッシモ宮　（ヴィッラ・ペレッティ広場）

小規模作品15点

太陽門

敬意

チェチリア・メテッラの墓廟（アッピア旧街道）

中規模作品１０点と一東氏のモニュメント作品「未来心の丘」のパネル。「未来心の丘」は、５千平方メートルにも及ぶ土地に、イタリアから15年以上かけて日本へ運ばれた３千トンのカッラーラの大理石を使用して作られ、広島の耕三寺内にあります。

「未来心の丘」原型

未来心の丘　写真
（広島　尾道　耕三寺博物館）